

## テーマの設定理由

昨年度も「光と影」をテーマに活動を行ったところ、子供たちが遊びや生活の中で、光と影に気付いたり発見したりすることを楽しむ姿が見られた。光によって生じる様々な現象や特性について、子供たちの興味や関心をさらに深め、知的好奇心や思考力の芽生え、探究心等を育むため。

## 活動スケジュール

- 7月8日 職員会議で探究活動の検討
- 9月4日 誕生会のお楽しみで影絵クイズ
- 9月5日 影絵遊び
- 12月13日 劇遊び（5歳）
- 1月23日 氷の実験（5歳）



1. 遊戯室で影を作って遊べるように場を設定した（スクリーン、机、懐中電灯）。
2. 劇遊びの中で、暗闇と光を表現できるようにした（照明、懐中電灯）。
3. 園庭で氷を作る実験をとおして、日なたと日陰の違いに気付くようにした（バケツ、カップ、水、絵の具など）。

## 活動事例

## 氷の実験をしよう～日陰と日なた～



5歳児は園庭に氷ができるかどうか実験を始めた。日当たりや風通しなどを予想し、水を入れたバケツやカップを置く場所を考え試すことにした。教師は日なたと日陰の光の加減や温度の違いに気付くように声を掛け、幼児の考えを引き出すようにした。

実験を始めて3日後、氷が張っていた。氷を手に乗せてみたり、光に透かして見たりするなど思い思いに楽しんだ。

## 振り返りを踏まえた気付き

実験に成功した後も、「こっちは凍らなかったね。どうしてだろう?」「もっと氷を作りたい!どこに置くといいかな?」「絵の具で色を付けたらどうなるんだろう?」など、自分なりに考えたり試したりする姿が見られた。このように直接体験をとおした気付きや発見が思考力の芽生えや探究心につながっていく。教師は、その季節ならではの自然物や事象との出会いを保障することが大切である。